

4) 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.2.3-37 に示した。

表 6.2.3-37 調査期間一覧

地区/季節	春季	夏季	秋季	冬季
G 地区	—	平成 29 年 7 月 22 日	平成 29 年 10 月 19 日	平成 29 年 12 月 22 日
G 進入路	—	工事中	平成 29 年 10 月 2 日	平成 30 年 1 月 31 日
H 地区	—	平成 29 年 7 月 21 日	平成 29 年 10 月 12 日	平成 29 年 12 月 20 日
N-1 地区	—	平成 29 年 7 月 14 日 ～15 日、18 日	平成 29 年 10 月 6 日	平成 30 年 1 月 22 日
N-4 地区	平成 29 年 6 月 1～3 日	平成 29 年 9 月 1 日	平成 29 年 11 月 29 日 ～30 日	平成 30 年 1 月 30 日

注) —は未実施を示す。

(2) 調査方法

早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況は、マント群落・ソデ群落形成地(樹木剪定及びリュウキュウチク植栽地)において、調査を実施した。調査は、各着陸帯の概ね東・西(北西)・南・北側に設けた代表枠 16 箇所で行った。

(3) 調査地点

調査地点は、図 6.2.3-56～図 6.2.3-60 に示した。

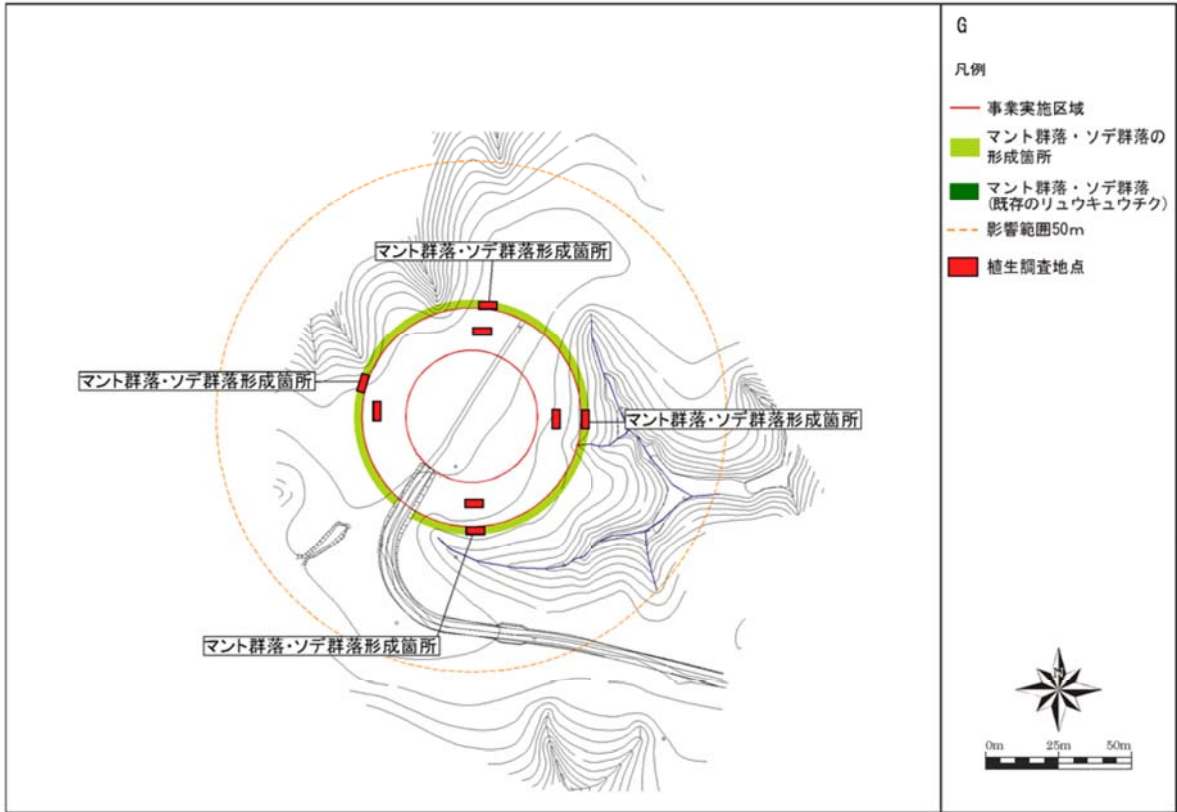


図 6.2.3-56 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (G)

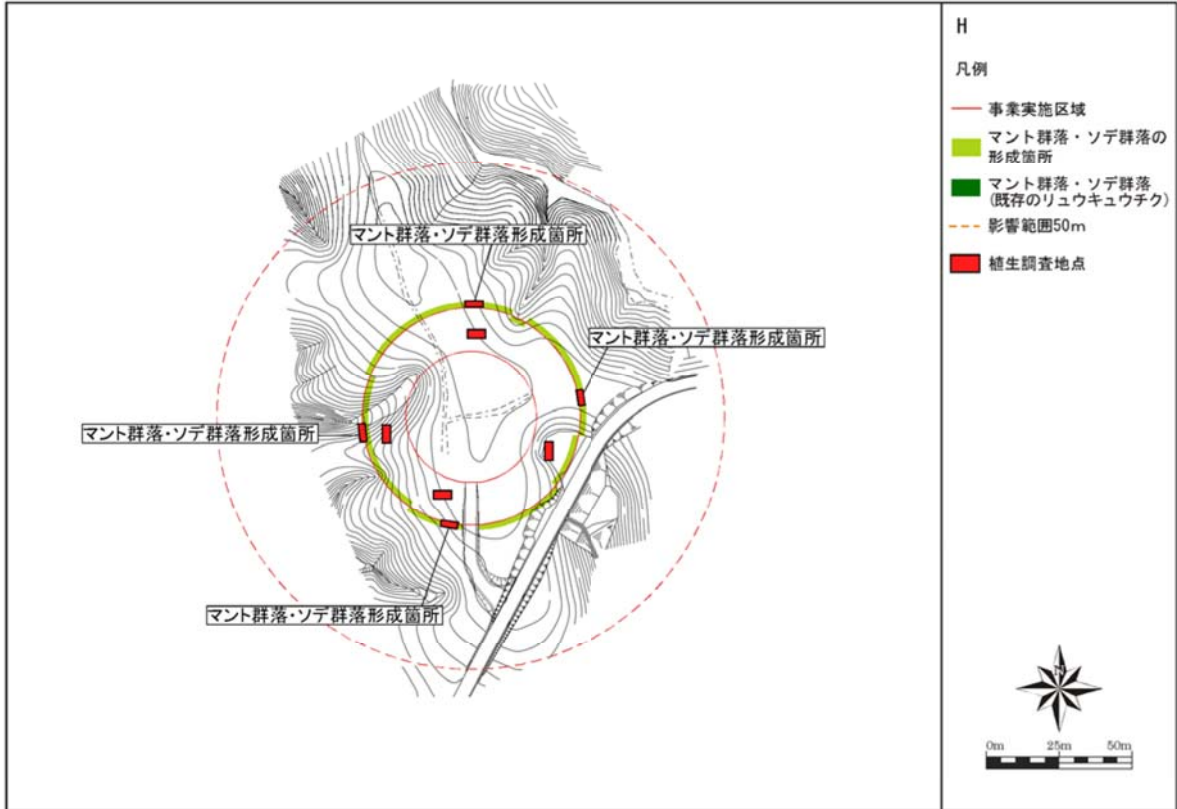


図 6.2.3-57 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (H)

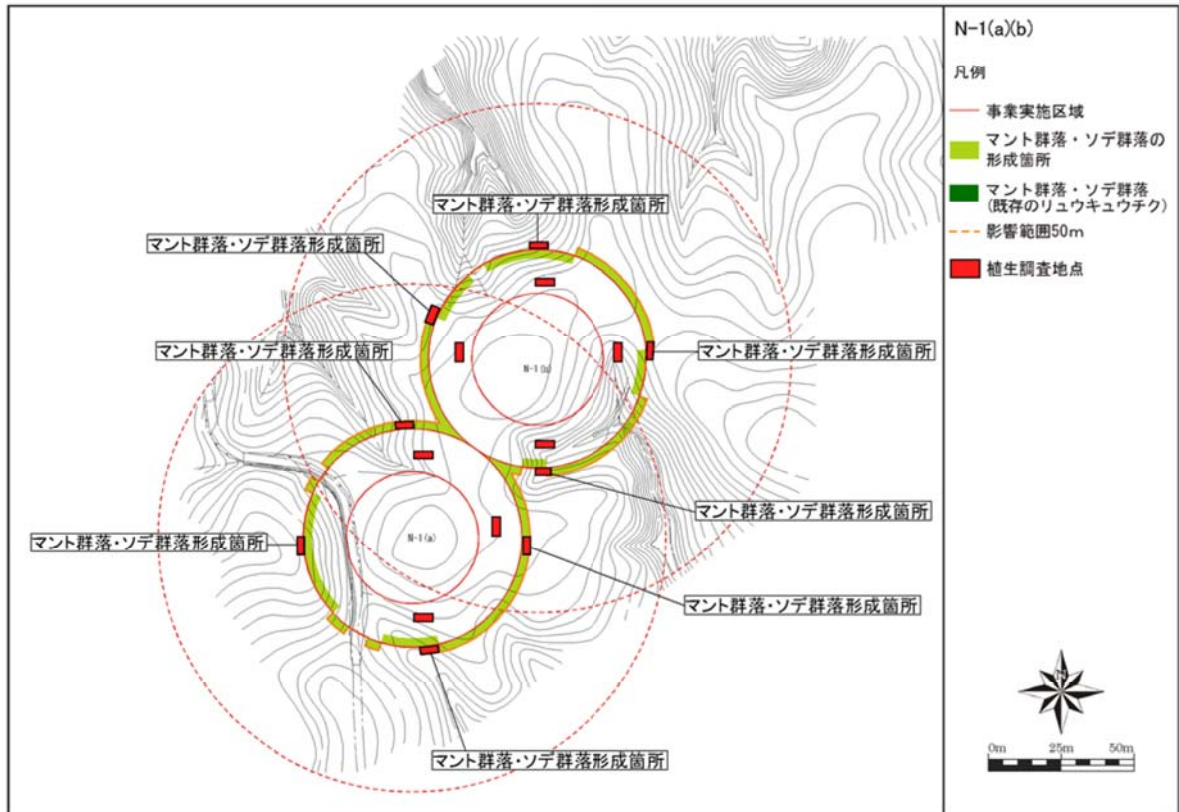


図 6.2.3-58 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (N-1)

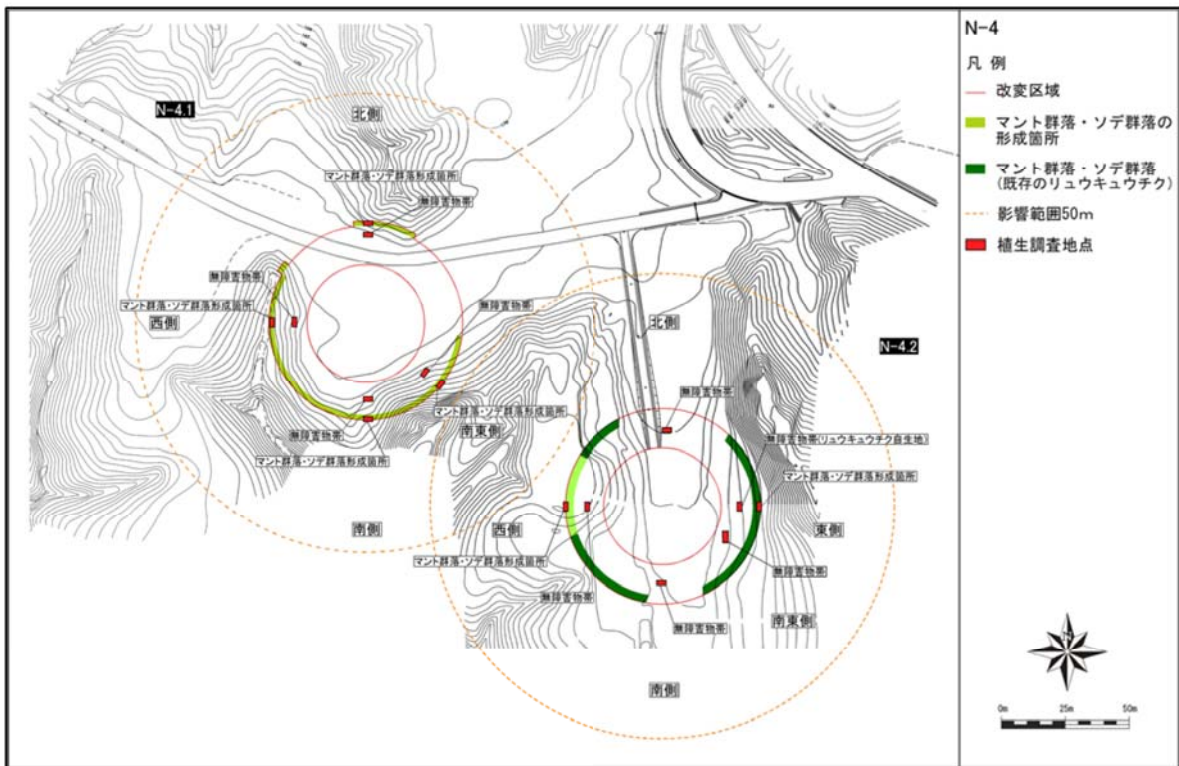


図 6.2.3-59 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (N-4)

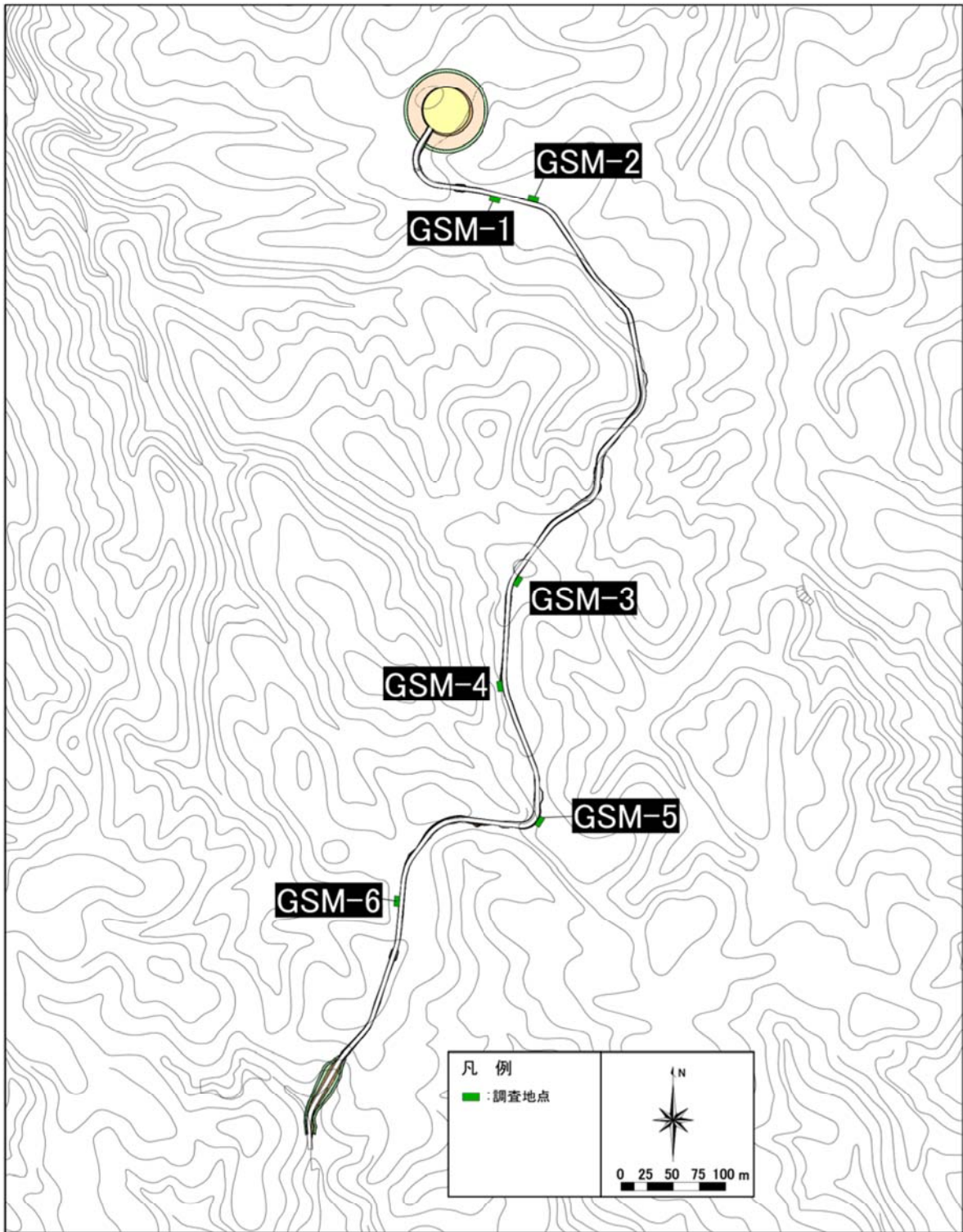


図 6.2.3-60 早期緑化帯における植栽種の生育・形成状況調査地点 (G 進入路)

(4) 調査結果

a) G 地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.2.3-38 に、調査地の状況を図 6.2.3-61 に示した。

全4箇所において、樹高4.0~4.5mの低木層、草本層の2階層に分化していた。種数は16~32種の生育を確認した。

低木層は、樹高4.0~4.5m、植被率1~40%、出現種数1~9種であった。

草本層は、草丈0.8~1.3m、植被率10~40%、出現種数14~31種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。

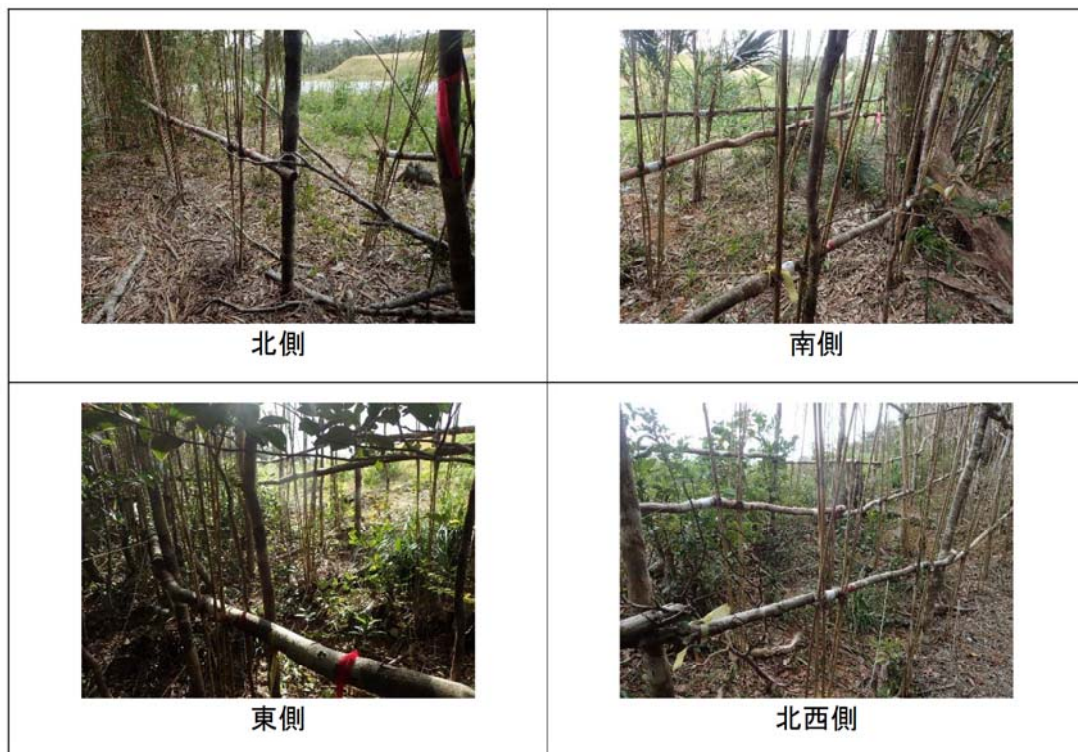


図 6.2.3-61 マント群落・ソデ群落の植生状況(G)平成29年度冬季

表 6.2.3-38 マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G)

調査年月	G マント群落・ソデ群落形成地												出現回数
	北側			南側			東側			北西側			
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度			
	1/22	10/19	12/22	1/22	10/19	12/22	1/22	10/19	12/22	1/22	10/19	12/22	
方位	-	-	-	-	-	-	E	E	E	NW	NW	NW	
傾斜角度 (°)	-	-	-	-	-	-	5	5	5	10	10	10	
調査区面積 (m ²)	1.5×3	1.5×3	1.5×3	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	
低木層(S)の高さ (m)	4.0	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の植被率 (%)	1	1	5	30	30	25	30	30	40	10	10	10	
低木層(S)の出現数 (種)	2	2	2	5	5	6	9	8	8	3	4	1	
草本層(H)の高さ (m)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1	1	1.3	1.0	1.0	1.3	
草本層(H)の植被率 (%)	10	20	20	20	40	40	30	40	40	20	20	30	
草本層(H)の出現数 (種)	14	15	15	21	22	23	27	26	25	30	31	30	
出現種数 (種)	15	16	15	15	16	15	22	23	23	30	29	29	
低木層 (S)													
S.1 リュウキュウテク (植栽)	+2	+2	+2	2-3	2-3	1-2	2-3	2-3	1-2	2-3	2-3	1-2	12
S.2 アデク				1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1			+	7
S.3 リュウキュウテク	+	+	1-1	+	+	+							6
S.4 イスノキ							1-2	1-2	1-2	+	+		5
S.5 スダジイ(イタジイ)				1-1	1-1	1-1							3
S.6 カクレミノ				1-1	1-1	1-1							3
S.7 タブノキ							1-1	1-1	1-1				3
S.8 ツゲモチ							+	+	1-1				3
S.9 リュウキュウモチ							+	+	+				3
S.10 シラタマカズラ							+	+	+				3
S.11							+	+					2
S.12 ハナガサノキ							+		+				2
S.13 シマミサオノキ										+	+2		2
S.14 リュウキュウテイカズラ						+							1
草本層 (H)													
H.1 スダジイ(イタジイ)	1-2	1-2	1-2	+	+2	+2	+	+	+2	+	+	1-2	12
H.2 ササクサ	+2	1-2	1-2	2-2	3-3	3-3	2-2	3-3	3-3	1-2	1-2	2-2	12
H.3 シラタマカズラ	+	+	+	+	+	+2	+	+	+	+	+	+	12
H.4 シバヤブニッケイ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.5 エダウチホングウシダ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.6 アデク	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+	11
H.7 コバンモチ	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	11
H.8 ヒメズリハ	+	+	+2				+	+	+	+	+	+2	9
H.9 シロダモ	+	+	+				+	+	+	+	+	+	9
H.10 ヤマヒハツ		+			+	+	+	+	+	+	+	+	9
H.11 クロガヤ				+	1-1	1-2	+2	1-2	1-2	+	+2	+2	9
H.12 イスノキ				+	+	+	+	+	1-2	+	+	+	9
H.13 シマミサオノキ				+	+	+	+	+	+	+	+	1-2	9
H.14 カクレミノ				+	+	+	+	+	+	+	+	+	9
H.15 ハナガサノキ				+	+	+	+	+	+		+	+	8
H.16 タイミンタチバナ				+	+	+2	+2	+2	+2	+	+	+	8
H.17 モクレイシ	+	+	+				+	+	+				7
H.18 アカガシワ	+	+	+							+	+	1-2	6
H.19 リュウキュウテイカズラ	+	+		+	+	+			+				6
H.20 ササバサンキライ			+	+	+	+				+		+	6
H.21 アオバナハイノキ							+	+	+2	+	+	+2	6
H.22 イジュ							+	+	+	+	+	+	6
H.23 ナンバンアワブキ							+	+	+	+	+	+	6
H.24 ヤブツバキ		+	+	+	+	+							5
H.25 ムツチャガラ				+	+	+			+		+		5
H.26 インディアリンバイ				+	+	+					+	+	5
H.27 タブノキ				+	+		+	+	+2	+			5
H.28 サザンカ	+			+	+	+							4
H.29 タシロルリミノキ							+	+	+	+			4
H.30 リュウキュウモチ							+	+		+	+		4
H.31 シシアクチ									+	+2	+2	1-2	4
H.32 ギョクシンカ	+	+	+										3
H.33 タイワンルリミノキ				+	+	+							3
H.34 マンリウ				+						+	+		3
H.35 ハゼノキ							+	+	+				3
H.36 ケテイカズラ							+	+		+			3
H.37 ナカハラクロキ							+	+				+2	3
H.38 オキナワサルトイバラ											+	+	3
H.39 ヤンバルミミズバイ										+	+	+	3
H.40 ウラジロカンコノキ										+	+	+	3
H.41										+	+	+	3
H.42 タイワンハチジョウナ										+	+	+	3
H.43 リュウキュウテク			+			+							2
H.44 シロミズ											+	+	2
H.45 ヘクソカズラ				+									1
H.46 ケハダルリミノキ							+						1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
群度→5: カベ`ット状に分布, 4: カベ`ットに穴が開いた状態, 3: 大きな斑を形成あるいはまだら状, 2: 斑状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表6.2.3-39に示した。また、調査地点の植生の状況を図6.2.3-62に示した。

以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈0.3~0.4m、植被率40~95%、出現種7~9種であった。芝張りされた草本類のシバが優占していた。

南側は、草丈0.3~0.6m、植被率50~70%、出現種7~8種であった。芝張りされた草本類のシバが優占していた。

東側は、草丈0.3~0.4m、植被率70~80%、出現種9~12種であった。芝張りされた草本類のギョウギシバ及びシバが優占していた。

西側は、低木層が高さ1.3m、植被率1未満~3%、出現種1~2種、草本層が高さ0.3~0.4m、植被率60~80%、出現種5~9種であった。低木層にリュウキュウチクの生育が確認されたほか、草本層は芝張りされた草本類のシバ及びギョウギシバが優占していた。

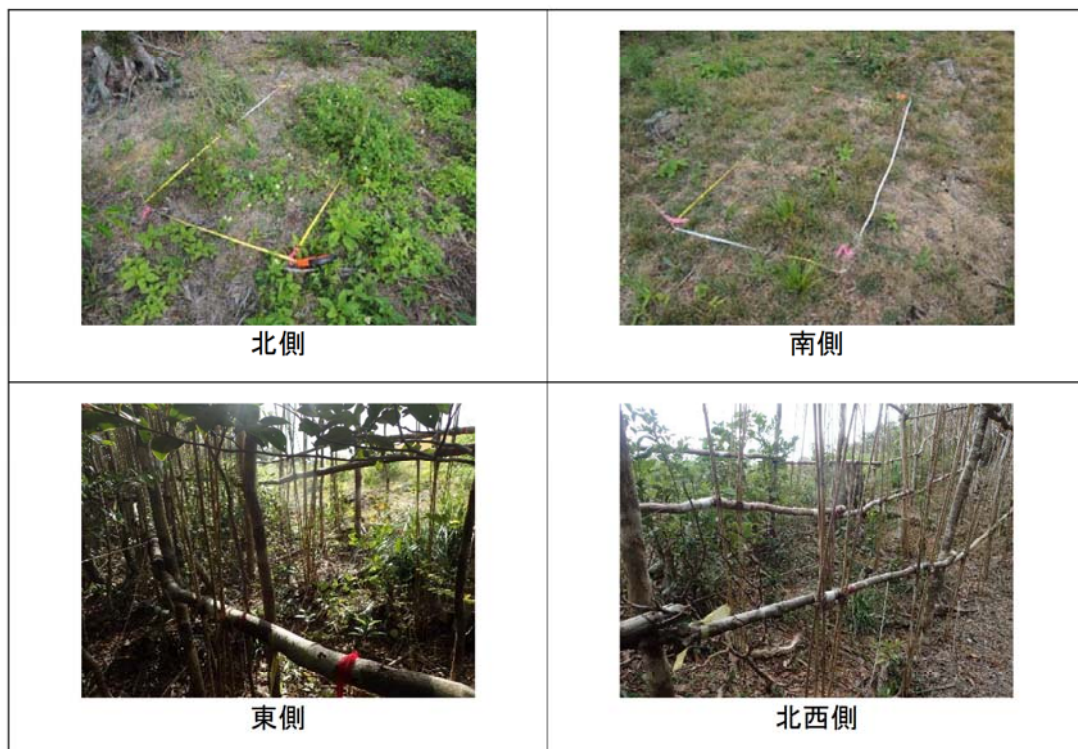


図 6.2.3-62 無障害物の植生状況(G) 平成29年度冬季

表 6.2.3-39 無障害物帯形成地の植生調査結果(G)

G 無障害物帯形成地	北側			南側			東側			西側			-	
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度				
	7/22	10/19	12/22	7/22	10/19	12/22	7/22	10/19	12/22	7/22	10/19	12/22		
調査年月														
方位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
傾斜角度 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
調査区面積 (m ²)	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	1.3	1.3		
低木層(S)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	<1	<1	3		
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1		
草本層(H)の高さ (m)	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.6	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4		
草本層(H)の植被率 (%)	95	40	60	50	70	70	75	70	80	60	60	80		
草本層(H)の出現数 (種)	7	7	9	7	8	8	12	9	11	5	9	9		
出現種数 (種)	7	7	9	7	8	8	12	9	11	6	9	9	出現回数	
低木層(S)														
S.1 リュウキュウチク											+	+	1・1	3
S.2 テリミノイヌホウズキ											+			1
草本層(H)														
H.1 シバ	5・5	3・3	3・3	3・3	4・4	4・4	4・4	2・2	2・2	3・3	3・3	4・4	12	
H.2 ギョウギシバ		+	+2	1・2	1・2	+2		4・4	4・4	1・2	2・2	2・2	10	
H.3 オオアブラガヤ	+	+					+	+	+	+	+	+	8	
H.4 ベニバナボロギク	1・2	1・2	1・2					+	+2		+	1・2	7	
H.5 ササクサ	+2	+	+							+	+	+	6	
H.6 ダンドボロギク			+	+2	+2	+2					+	1・2	6	
H.7 ヒナギキョウ					+	+			+		+	+	5	
H.8 シロノセンダングサ		1・1	3・3								+	1・2	4	
H.9 オニタビラコ					+	+		+2	+2				4	
H.10 チチゴサ	+		+				+						3	
H.11 オヒシバ	+						+	+					3	
H.12 クロガヤ		+	+	+									3	
H.13 リュウキュウチク				+2	+2	1・2							3	
H.14 オキナワサルトリイバラ				+	+	+							3	
H.15 ヒメスイバ							+2	+2	+2				3	
H.16 ニワゼキショウ			+	+									2	
H.17 セイヨウタンポポ						+2			+2				2	
H.18 アゼガヤツリ							+	+					2	
H.19 センナリホウズキ							+		+				2	
H.20 シマウリクサ								+	+				2	
H.21 タチスズメノヒエ											+	1・1	2	
H.22 ホシダ	+												1	
H.23 ナガバカニクサ					+								1	
H.24 オキナワスズメウリ							+2						1	
H.25 スベリヒユ							+						1	
H.26 タカサブロウ							+						1	
H.27 チョウジタデ							+						1	
H.28 ヤエムグラ							+						1	
H.29 チガヤ									+				1	
H.30 ヒメオニササガヤ										2・2			1	

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
 群度→5: かべ'ット状に分布, 4: かべ'ットに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

b) G 進入路

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.2.3-40 に、調査地の状況を図 6.2.3-63 に示した。

GSM-1 及び GSM-3 においては、樹高 6.0～8.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に分化しているほか、GSM-2 及び GSM-4～GSM-6 においては、樹高 3.0～4.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。種数は 5～23 種の生育を確認した。

亜高木層は、樹高 6.0～8.0m、植被率 10～20%、出現種数 1～2 種であった。

低木層は、樹高 3.0～4.5m、植被率 15～40%、出現種数 1～9 種であった。

草本層は、草丈 0.5～0.8m、植被率 1%未満～20%、出現種数 4～22 種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。

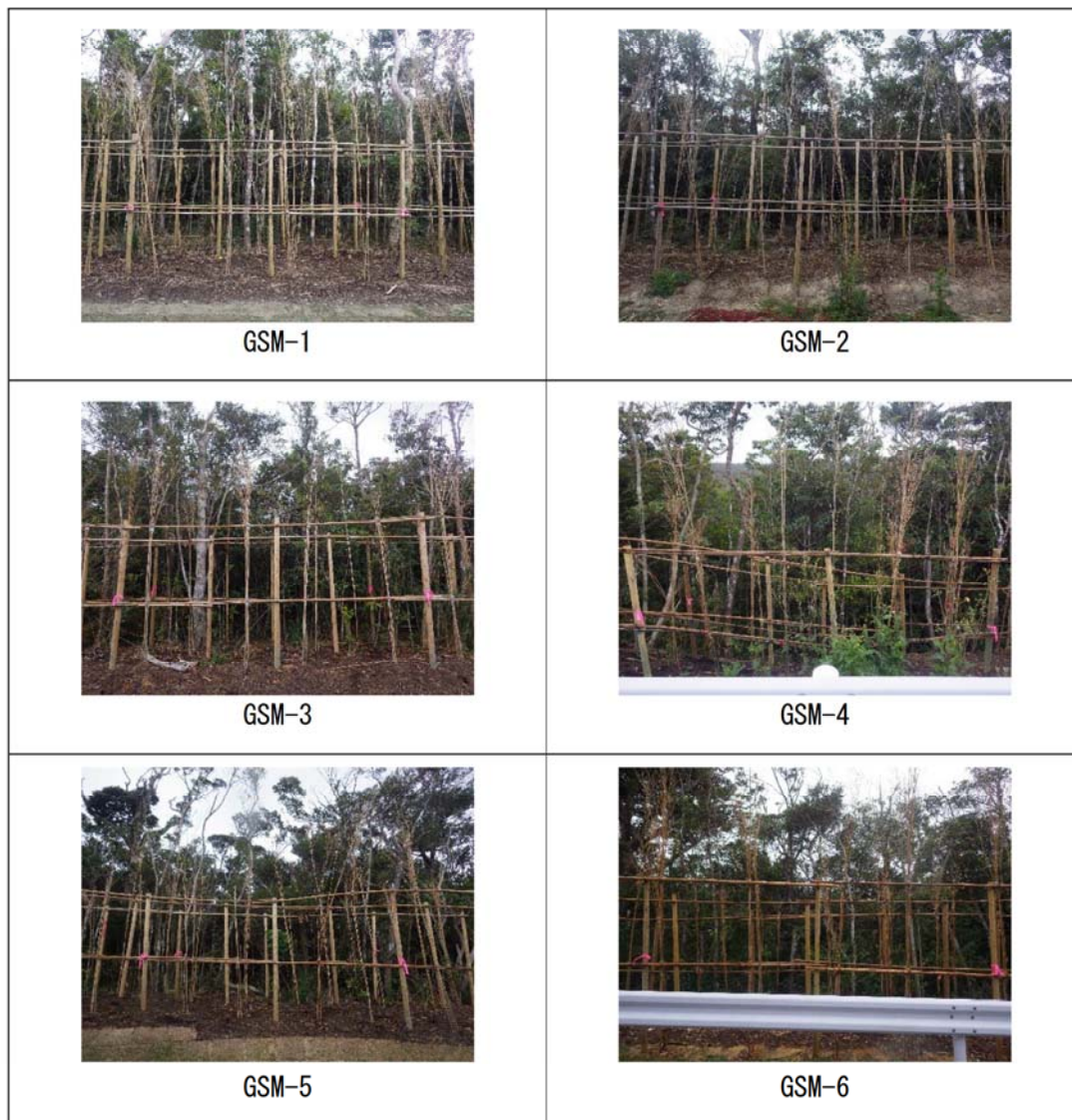


図 6.2.3-63 マント群落・ソデ群落の植生状況(G 進入路)平成 29 年度冬季

表 6.2.3-40 マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

調査年月	GSM1		GSM2		GSM3		GSM4		GSM5		GSM6		出現回数	
	H29年度	10/2	1/31	H29年度	10/2	1/31	H29年度	10/2	1/31	H29年度	10/2	1/31		
方位	-	-	-	-	-	-	W	-	-	-	-	-	-	
傾斜	(°)	-	-	-	-	-	45	45	-	-	-	-	-	
面積	(m ²)	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	-	
亜高木層(T2)の高さ	(m)	8	8	-	-	6	6	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率	(%)	10	10	-	-	20	20	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現種	(種)	1	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ	(m)	4.5	4.5	4.5	4.5	4	4	3	3	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の植被率	(%)	40	20	30	20	40	40	15	15	15	15	15	15	
低木層(S)の出現種	(種)	3	3	5	4	9	9	1	1	2	2	2	2	
草本層(H)の高さ	(m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.5	0.5	0.8	0.8	0.5	0.5	
草本層(H)の植被率	(%)	10	10	3	20	10	10	<1	<1	5	10	<1	5	
草本層(H)の出現種	(種)	11	11	8	18	11	16	10	10	16	22	4	5	
出現種数	(種)	14	14	12	20	17	20	10	10	17	23	5	6	
亜高木層														
T2.1	モッコク	1-1	1-1										2	
T2.2	スダジイ(イタジイ)					2-1	2-1						2	
T2.3	ハナガサノキ					+							1	
低木層														
S.1	リュウキュウチク (補栽)	3-3	2-3	3-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3	1-3	1-3	12
S.2	ヒメズリハ	+	+	+	+									4
S.3	タイミンタチバナ			+	+	+	+							4
S.4	ツゲモチ	+	+											2
S.5	ギョクシンカ			+	+									2
S.6	イスノキ					1-2	1-2							2
S.7	ハナガサノキ					1-2	+							2
S.8	ヤマヒハツ					1-1	1-1							2
S.9	シラタマカズラ					1-1	1-1							2
S.10	イヌマキ					+	+							2
S.11	ミズノバイ					+	+							2
S.12	ヤブツバキ					+	+							2
S.13	フカノキ									+	+			2
S.14	スダジイ(イタジイ)											1-1	1-1	2
S.15	リュウキュウモチ			+										1
草本層														
H.1	ハナガサノキ	+	+		+	+	+	+		+	+	+	+	10
H.2	スダジイ(イタジイ)	+	+			+	+	+2	+	+	+	+2	1-2	10
H.3	シマミサオノキ	1-2	1-2		+	+	+		+		+	+	1-1	9
H.4	ササクサ	+2	+2		1-2	+2	+2			+	+			7
H.5	ヤマヒハツ	+	+		1-2		+	+		+	+			7
H.6	クロガヤ			+	1-1	1-2	1-2			+	1-1			6
H.7	タイミンタチバナ			+	+	+2	+2			+	+			6
H.8	コシダ							+	+	+2	+2	+	+	6
H.9	イスノキ	+	+	+	+		+							5
H.10	コハシモチ	+	+			+	+			+				5
H.11	シバヤブニツケイ	+	+			+	+				+			5
H.12	カクレミノ				+			+	+	+	+			5
H.13	シロミズ	+	+			+	+							4
H.14	アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)			+	+					+	+			4
H.15	マンリョウ			+	+					+	+			4
H.16	イヌマキ					+	+	+	+					4
H.17	リュウキュウチク							+	+	+	+			4
H.18	ヒメズリハ	+	+		+									3
H.19	インドシャリンバイ	+	+								+			3
H.20	タブノキ			+	+						+			3
H.21	アラク			+	+									2
H.22	シシアクチ			+	+									2
H.23	オオバギ				+						+			2
H.24	ヤンバルミズバイ					+	+							2
H.25	エダウチホングウシダ						+				+			2
H.26	モッコク							+	+					2
H.27	リュウキュウモチ							+	+					2
H.28	シラタマカズラ							+		+				2
H.29	ヒサカキ									1-1	+			2
H.30	トベラ										+	+		2
H.31	ヤブツバキ										+	+		2
H.32	アキノゲシ				+									1
H.33	アメリカワウロ				+									1
H.34	シロダモ				+									1
H.35	ギイマ						+							1
H.36	タイワンルリミノキ						+							1
H.37	リュウキュウマツ								+					1
H.38	クロバイ									+				1
H.39	モチノキ										1-1			1
H.40	ツゲモチ										+			1
H.41	オキナワサルトリイバラ												+	1

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
群度→5: かゝつ状に分布, 4: かゝつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

c) H 地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.2.3-41 に、調査地の状況を図 6.2.3-64 に示した。

東側においては、樹高 7.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に分化しており、北側及び南側、西側は樹高 4.0～5.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。種数は 17～26 種の生育を確認した。

亜高木層は、東側の 1 箇所では樹高 7.0m、植被率 10%、出現種数 2 種であった。

低木層は、樹高 3.5～5.5m、植被率 20～60%、出現種数 3～9 種であった。

草本層は、草丈 1.0m、植被率 5～20%、出現種数 14～23 種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。



図 6.2.3-64 マント群落・ソデ群落の植生状況(H)平成 29 年度冬季

表 6.2.3-41 マント群落・ソデ群落の植生調査結果 (H)

調査年月	マント群落・ソデ群落形成地											
	北側			南側			東側			西側		
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度		
	7/21	10/12	12/20	7/21	10/12	12/20	7/21	10/12	12/20	7/21	10/12	12/20
方位	E	E	E	-	-	-	-	-	-	W	W	W
傾斜角度 (°)	5	5	5	-	-	-	-	-	-	5	5	5
調査区面積 (m ²)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
亜高木層 (T2) の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	7.0	7.0	7.0	-	-	-
亜高木層 (T2) の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	10	10	10	-	-	-
亜高木層 (T2) の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	2	2	2	-	-	-
低木層 (S) の高さ (m)	5.5	5.5	5.5	4.5	4.5	4.5	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0
低木層 (S) の植被率 (%)	20	20	20	20	20	20	60	40	20	30	30	30
低木層 (S) の出現数 (種)	4	4	5	9	7	6	5	5	5	3	4	4
草本層 (H) の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
草本層 (H) の植被率 (%)	10	15	20	10	10	10	15	15	15	5	5	5
草本層 (H) の出現数 (種)	22	23	22	22	22	23	17	18	18	14	15	16
出現種数 (種)	24	25	24	26	24	26	21	20	20	17	18	18
亜高木層 (T2)												
T2.1 タイミンタチバナ							1-1	1-1	1-1			
T2.2 モッコク							1-1	1-1	1-1			
低木層 (S)												
S.1 リュウキュウチク (種数)	2-3	2-3	1-2	2-3	2-3	+2	2-3	2-3	+2	2-3	2-3	2-3
S.2 イスノキ	1-1	1-1	1-1	1-1	1-2	1-2				1-1	1-1	1-1
S.3 タイミンタチバナ	+	+	+		+		1-1	1-1	1-1			
S.6 リュウキュウチク			1-1	+	+	+					1-2	1-2
S.4 コバンモチ				+	+	+	+	+	1-1			
S.5 カクレミノ	+	+	+		+	+						
S.7 アデク				+			1-1	1-1	1-1			
S.8 シマミサオノキ				1-1	1-1	1-1						
S.9 シフタマカズラ							+	+	+			
S.10 ヤマヒハツ										+	+	+
S.11 ハナガサノキ				+								
S.12 シバヤブニッケイ				+								
S.13 ミミズバイ				+								
草本層 (H)												
H.1 ササクサ	+2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	+	+	+2	+	+	+
H.2 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+
H.3 クロガヤ	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+
H.4 アデク	+	+	+	+	+	+				+	+	+
H.5 ハナガサノキ	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+
H.6 リュウキュウモチ	+	+	+	+	+	+				+	+	+
H.7 ヒメズリハ	+	+	+				+	+	+	+	+	+
H.8 マンリョウ	+			+	+	+	+	+	+		+	+
H.9 シラタマカズラ	+	+	+	+	+	+						
H.10 ササバサンキライ	+	+	+	+	+	+						
H.11 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	+	+2	+2					+	
H.12 イスノキ	+	+	+	+	+	+						+
H.13 キョクシンカ	+	+	+				+	+	+			
H.14 コバンモチ		+		+	+		+	+	+	+		
H.15 タイミンタチバナ				+	+	+	+	+	+			+
H.16 コシダ	+	+2	1-2						1-2	1-2	1-2	
H.17 シバヤブニッケイ	+	+	+								+	+
H.18 インドシャリンバイ	+			+	+	+	+	+	+			
H.19 シンエダウチホンゴウシダ				+	+	+					+	+
H.20 カクレミノ				+	+	+					+	+
H.21 イジュ	+	+		+	+	+						
H.22 ウラジロカンコノキ				+	+	+					+	
H.23 シロミズ							+	+	+	+	+	
H.24 リュウキュウチク	+2	+2	+	+								
H.25 モクレイシ	+	+	+				+					
H.26 ヤマヒハツ		+	+		+	+						
H.27 ヘクソカズラ		+	+				+	+				
H.28 アカメガシワ				+	+	+				+		
H.29 トキワカモメツル	+	+	+									
H.30 オオバギ				+					+			+
H.31 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)				+						+	+	
H.32 ホルトノキ(モガシ)				+	+	+						
H.33 ツゲモチ				+	+	+						
H.34 ギイマ							+	+	+			
H.35 ヒョウタンカズラ										+	+	+
H.36 コバナヒメハギ	+	+										
H.37 ムッチャガラ				+		+						
H.38 トベラ				+			+					
H.39 ヒサカキ											+	+
H.40 トクサラン	+											
H.41 タブノキ							+					
H.42 シマミサオノキ								+				
H.43 エゴノキ											+	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.2.3-42 に示した。

また、調査地点の植生の状況を図 6.2.3-65 に示した。

以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈 0.3~0.8m、植被率 50~95%、出現種 4~6 種であった。草本類のベニバナボロギクが優占していた。

南側は、草丈 0.2m、植被率 60~75%、出現種 3~12 種であった。芝張りされた草本類のギョウギシバ及びシバが優占していた。

東側は、草丈 0.1m、植被率 100%、出現種 4~6 種であった。芝張りされた草本類のシバが優占していた。

西側は、草丈 0.1~0.2m、植被率 100%、出現種 3~4 種であった。芝張りされた草本類のシバが優占していた。

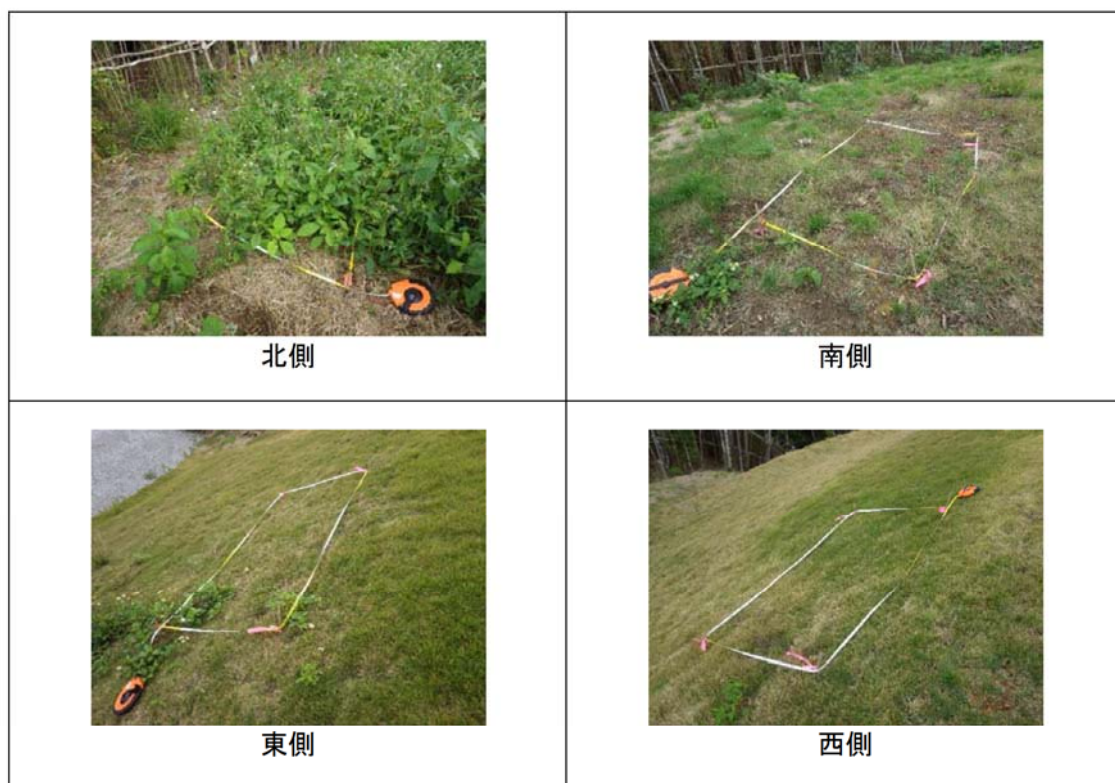


図 6.2.3-65 無障害物の植生状況の推移(H)

表 6. 2. 3-42 無障害物帯形成地の植生調査結果 (H)

H 無障害物帯	北側			南側			東側			西側			-
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度			
	7/21	10/12	12/20	7/21	10/12	12/20	7/21	10/12	12/20	7/21	10/12	12/20	
調査年月													
方位	NE	NE	NE	S	S	S	E	E	E	W	W	W	
傾斜角度 (°)	10	10	10	5	5	5	45	45	45	45	45	45	
調査区面積 (m ²)	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	
草本層(H)の高さ (m)	0.3	0.8	0.8	.	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	
草本層(H)の植被率 (%)	95	50	80	60	75	70	100	100	100	100	100	100	
草本層(H)の出現数 (種)	5	4	6	3	8	12	4	5	6	3	3	4	出現回数
草本層(H)													
H. 1 シバ		+2		1・2	3・3	2・2	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	10
H. 2 ハマスゲ							+2	1・2	+2	1・2	1・2	+2	6
H. 3 タカサブロウ				1・1	2・2					+	+	+	5
H. 4 カタバミ						+	+2	+	+				4
H. 5 シロノセンダングサ							+	+	1・2			+	4
H. 6 オオアブラガヤ	+2	+	+										3
H. 7 ベニバナボロギク	+	3・3	5・5										3
H. 8 キバナニワゼキショウ	+		+			+							3
H. 9 ギョウギシバ		1・2	+			3・3							3
H. 10 ダンドボロギク			+			+							2
H. 11 コバノシキソウ					3・3				+				2
H. 12 シマニシキソウ					1・1	1・2							2
H. 13 トキワハゼ					1・1	+							2
H. 14 メヒシバ					+	+							2
H. 15 ケノオイグサ								+	+				2
H. 16 ヒメオニササガヤ	5・5												1
H. 17 アラゲヒメワラビ	+												1
H. 18 ホウキギク			+2										1
H. 19 スズメノカタビラ				3・4									1
H. 20 チョウジタデ					+								1
H. 21 ハマサルトリイバラ					+								1
H. 22 ヒメブタナ						+2							1
H. 23 オキナワサルトリイバラ						+							1
H. 24 ギシギシsp.						+							1
H. 25 ヤマグワ						+							1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「2・3」の場合、「2」が優占度、「3」が群度となる。

(優占度)

5:被度が75~100% 4:被度が50~75% 3:被度が25~50% 2:被度が10~25% 1:被度が10%未満 +:被度が1%以下

(群度)

5:カーペット状に分布 4:カーペットに穴が開いた状態 3:大きな斑を形成あるいはまだら状 2:斑状に分布

1:小群状あるいは単独に分布。

d) N-1(a)

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.2.3-43 に、調査地の状況を図 6.2.3-66 に示した。

南側においては、樹高 8.5m の高木層、亜高木層、低木層、草本層の 4 階層に分化しているほか、東側は樹高 5.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に、北側及び西側は樹高 2.0~2.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。種数は 18~31 種の生育を確認した。

高木層は、南側の 1 箇所のみで樹高 8.5m、植被率 25%、出現種数 1 種であった。

亜高木層は、東側、南側の 2 箇所で樹高 5.0~6.0m、植被率 20~75%、出現種数 2~7 種であった。

低木層は、樹高 2.0~2.5m、植被率 10~60%、出現種数 3~8 種であった。

草本層は、草丈 0.5~1.0m、植被率 10~50%、出現種数 17~28 種であった。

なお、東側については、工事前からリュウキュウチクが生育しており、既存のマント群落・ソデ群落が形成されている。

既存のマント群落・ソデ群落が形成されている東側を除く 3 地点においては、マント群落・ソデ群落の形成に至っていない。

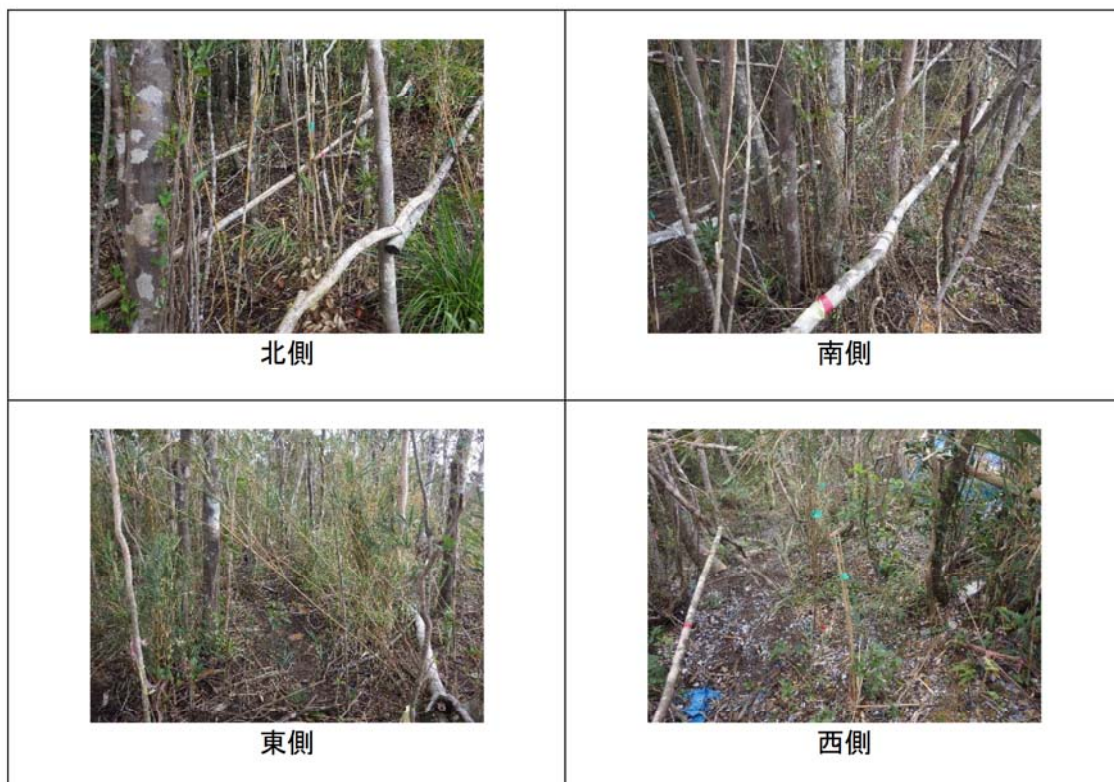


図 6.2.3-66 マント群落・ソデ群落の植生調査状況 (N-1(a)) 平成 29 年度冬季

表 6.2.3-43(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a))

調査年月	北側			南側			東側			西側			出現回数
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度			
	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	
方位	W	W	W	W	W	W	-	-	-	W	W	W	
傾斜角度 (°)	40	40	40	5	5	5	-	-	-	5	5	5	
調査区面積 (m ²)	2×3	2×3	2×3	2×4	2×4	2×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1×4	1×4	1×4	
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	8.5	8.5	8.5	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	25	25	25	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	6.0	6.0	6.0	5.0	5.0	5.0	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	75	70	20	25	25	25	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	7	7	7	2	2	3	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	60	60	60	40	40	10	50	40	30	25	25	25	
低木層(S)の出現数 (種)	3	3	3	8	8	8	7	8	3	4	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.7	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	10	10	10	50	50	40	10	10	10	20	20	20	
草本層(H)の出現数 (種)	19	17	17	27	28	27	19	17	19	21	27	27	
出現種数 (種)	20	18	18	29	31	29	22	19	20	23	29	29	
高木層(T1)													
T1.1 スダジイ(イタジイ)				2-1	2-1	2-1							3
亜高木層(T2)													
T2.1 アデク				1-1	1-1	+	2-1	2-1	2-1				6
T2.2 タイミンタチバナ				3-3	3-3	+2							3
T2.3 ヒメズリハ				2-2	1-2	1-2							3
T2.4 イスノキ				1-1	1-1	1-1							3
T2.5 イヌマキ				1-1	1-1	+							3
T2.6 コバンモチ				1-1	1-1	+							3
T2.7 ギイマ				+	+	+							3
T2.8 ギョクシンカ							1-1	1-1	1-1				3
T2.9 ハナガサノキ									+				1
低木層(S)													
S.1 リュウキュウチク (植栽)	4-4	3-4	3-4	1-2	1-2	1-2				2-3	2-3	2-3	9
S.2 アデク	1-1	1-1	1-1	+	+	+	1-1	1-1					8
S.3 リュウキュウチク							3-3	2-3	2-3	+	+	+	6
S.4 シラタマカズラ				+	+	+	+	+					5
S.5 ギョクシンカ				1-1	1-1	+		+					4
S.6 シバヤブニッケイ	+	1-1	1-1										3
S.7 イスノキ				1-2	1-2	+2							3
S.8 リュウキュウアリドウシ				1-2	1-2	+2							3
S.9 コバンモチ				+	+	+							3
S.10 ムツチャガラ				+	+	+							3
S.11 ヒメズリハ							+	+	+				3
S.12 ヒサカキ										1-1	1-1	1-1	3
S.13 タイミンタチバナ							+	+					2
S.14 スダジイ(イタジイ)							+	+					2
S.15 ハナガサノキ								1-1	1-1				2
S.16 ヤマヒハツ							1-1						1
S.17 フカノキ										1-1			1
草本層(H)													
H.1 ササクサ	1-2	1-2	1-2	+	+	+	+	+	+	+2	+2	+2	12
H.2 タイミンタチバナ	+	+	+	1-2	1-2	+2	+	+	+	1-2	1-2	1-2	12
H.3 シラタマカズラ	+	+	+	+2	+2	+2	+	+	+	+	+	+	12
H.4 シバヤブニッケイ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.5 ササバサンキライ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.6 イスノキ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	12
H.7 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	11
H.8 ムツチャガラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+				10
H.9 イヌマキ	+	+	+	+	+	+2	+	+	+				9
H.10 シンエダウチホングウシダ	+	+	+	+	+	+				+	+	+	9
H.11 オキナワサルトリイバラ				+	+	+	+	+	+	+	+	+	9
H.12 クロガヤ	+	+	+	+	+	+					+	+	8
H.13 シシアクチ	+	+	+	+	+	+	+	+					7
H.14 アオバナハイノキ	+	+	+		+					+	+	+	7
H.15 アデク	+	+	+			+				+	+	+	7
H.16 ヤマヒハツ	+			+	+	+				+	+	+	7
H.17 ハナガサノキ				+	+	+	+	+	+	+	+	+	7
H.18 オニクラマゴケ(ミドリカタヒバ)	+2	+2	+							+	+	+	6
H.19 イジュ	+	+	+	+	+	+							6
H.20 ヒメズリハ				+	+	+	+2	+2	+				6
H.21 カクレミノ				+	+	+	+	+	+				6
H.22 コバンモチ				+	+	+	+	+	+				6

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
 群度→5: かへ[△]ツ状に分布, 4: かへ[△]ツに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.2.3-43(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a))

調査年月	北側			南側			東側			西側			出現回数
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度			
	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	
方位	W	W	W	W	W	W	-	-	-	W	W	W	
傾斜角度 (°)	40	40	40	5	5	5	-	-	-	5	5	5	
調査区面積 (m ²)	2×3	2×3	2×3	2×4	2×4	2×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1×4	1×4	1×4	
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	8.5	8.5	8.5	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	25	25	25	-	-	-	-	-	-	
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	6.0	6.0	6.0	5.0	5.0	5.0	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	75	70	20	25	25	25	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	7	7	7	2	2	3	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	60	60	60	40	40	10	50	40	30	25	25	25	
低木層(S)の出現数 (種)	3	3	3	8	8	8	7	8	3	4	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.7	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	10	10	10	50	50	40	10	10	10	20	20	20	
草本層(H)の出現数 (種)	19	17	17	27	28	27	19	17	19	21	27	27	
出現種数 (種)	20	18	18	29	31	29	22	19	20	23	29	29	
草本層(H)													
H.23 インドシャリンバイ				+	+	+	+	+					5
H.24 ミズバイ				+		+				+	+	+	5
H.25 ヒョウタンカズラ				+	+	+						+	4
H.26 リュウキュウテク				+			+	+	+				4
H.27 シマミサオノキ					+	+						+	4
H.28 ヤマハルミズバイ	+	+	+										3
H.29 リュウキュウテク (植栽)				3-3	3-3	3-3							3
H.30 リュウキュウアウドウシ				1-2	1-2	+2							3
H.31 リュウキュウモチ				+	+	+							3
H.32 マンリョウ							+	+	+				3
H.33 ヒサカキサザンカ										1-2	1-2	+2	3
H.34 フカノキ										+	+	1-1	3
H.35 アカマガシフ										+	+	+	3
H.36 シロミズ										+	+	+	3
H.37 モクレイシ										+	+	+	3
H.38 タブノキ										+	+	+	3
H.39 トキワカモズル										+	+	+	3
H.40 ヤマモモ										+	+	+	3
H.41 ヒサカキ				+	+								2
H.42 モッコク				+	+								2
H.43							+	+					2
H.44 ヤマダワ											+	+	2
H.45 エゴノキ	+												1
H.46 ギョクシンカ									1-1				1
H.47 リュウキュウテイカズラ									+				1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、北側、南側、東側の3箇所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.2.3-44 に、調査地点の植生の状況を図 6.2.3-67 に示した。なお、西側については、既存道路となっていることから、調査を行っていない。以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈 0.5~0.7m、植被率 90~100%、出現種 8~12 種で、オオアブラガヤが優占していた。

南側は、草丈 0.5m、植被率 50~90%、出現種 6~15 種で、シバが優占していた。

東側は、草丈 0.1m、植被率 95%、出現種はシバ 1 種であった。

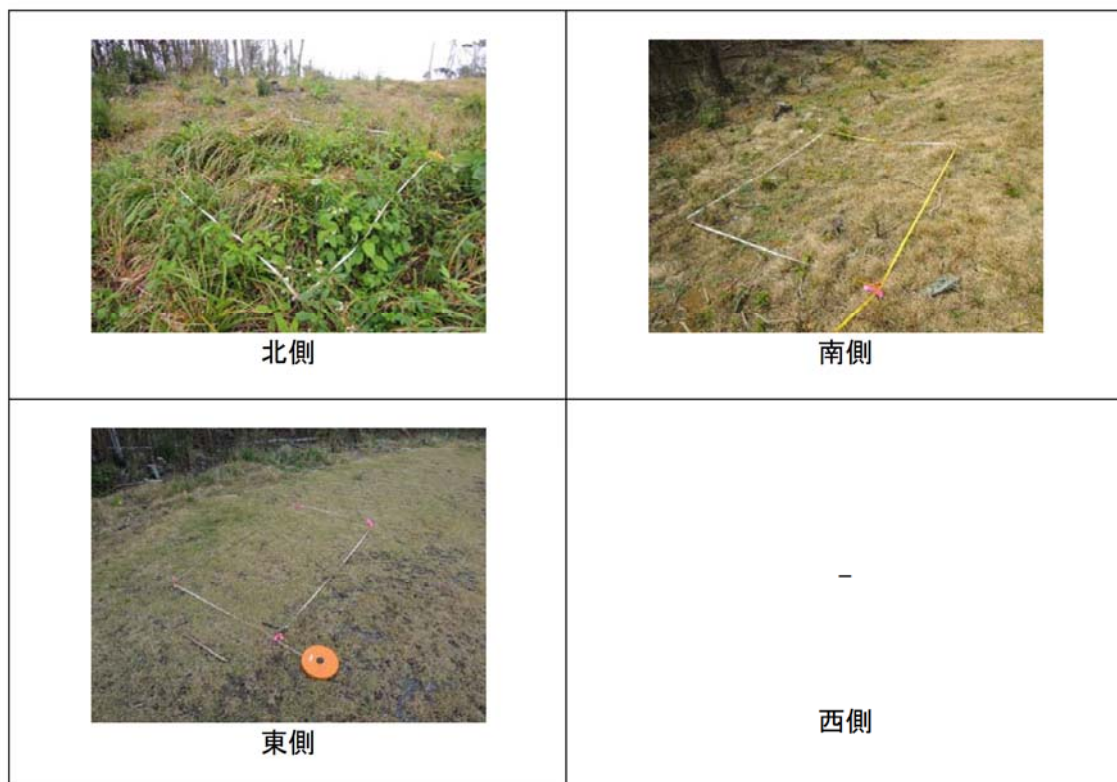


図 6.2.3-67 無障害物の植生状況(N-1(a)) 平成 29 年度冬季

表 6.2.3-44 無障害物帯形成地の植生調査結果 (N-1(a))

N-1(a) 無障害物帯	北側			南側			東側			出現回数
	H29年度			H29年度			H29年度			
	7/14	10/6	1/22	7/14	10/6	1/22	7/14	10/6	1/22	
調査年月										
方位	W	W	W	SW	SW	SW	-	-	-	
傾斜角度 (°)	30	30	30	10	10	10	-	-	-	
調査区面積 (m ²)	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×1	2×1	2×1	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.7	0.5	0.5	0.6	0.1	0.1	0.1	
草本層(H)の植被率 (%)	100	90	90	90	50	60	95	95	95	
出現種数 (種)	8	9	12	6	6	15	1	1	1	
草本層(H)										
H.1 シバ	3・4	3・3	3・3	5・5	3・4	3・4	5・5	5・5	5・5	9
H.2 オオアブラガヤ	3・4	4・4	4・4	+	+	+				6
H.3 ベニバナボロギク	1・2	+	1・2		+	+・2				5
H.4 ホシダ		+	+			+				3
H.5 ササクサ		+		+		+				3
H.6 ホラシノブ		+			+	+				3
H.7 ハマサルトリイバラ	+	+・2								2
H.8 ススキ	+		+							2
H.9 アデク	+		+							2
H.10 ヒカゲヘゴ	+			1・2						2
H.11 ニワゼキショウ		+	+							2
H.12 ヒナギキョウ			+	+						2
H.13 ヒメブタナ			+			1・2				2
H.14 ギョウギシバ			+			+				2
H.15 リュウキュウチク					+	+				2
H.16 イスノキ					+	+				2
H.17 ツゲモチ	+									1
H.18 インドシャリンバイ		+								1
H.19 シロノセンダングサ			+・2							1
H.20 ワラビ			+							1
H.21 ヒメオニササガヤ				1・2						1
H.22 コマツヨイグサ						1・2				1
H.23 オキナワサルトリイバラ						+				1
H.24 オニタビラコ						+				1
H.25 ダンドボロギク						+				1
H.26 チチコグサ						+				1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「2・3」の場合、「2」が優占度、「3」が群度となる。
 (優占度)
 5:被度が75~100% 4:被度が50~75% 3:被度が25~50% 2:被度が10~25% 1:被度が10%未満 +:被度が1%以下
 (群度)
 5:カーペット状に分布 4:カーペットに穴が開いた状態 3:大きな斑を形成あるいはまだら状 2:斑状に分布
 1:小群状あるいは単独に分布。

e) N-1 (b)

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.2.3-45 に、調査地の状況を図 6.2.3-68 に示した。

北側及び西側においては、樹高 8.0m の高木層、亜高木層、低木層、草本層の 4 階層に分化しているほか、南側は樹高 4.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に、東側は樹高 2.0m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。種数は 11~27 種の生育を確認した。

高木層は、北側及び西側の 2 箇所で樹高 8.0m、植被率 10~50%、出現種数 1~3 種であった。

亜高木層は、北側、南側、西側の 3 箇所で樹高 4.0~5.0m、植被率 10~15%、出現種数 1~3 種であった。

低木層は、樹高 2.0~3.0m、植被率 20~45%、出現種数 1~4 種であった。

草本層は、草丈 0.5~1.5m、植被率 5~25%、出現種数 9~23 種であった。

各地点とも、マント群落・ソデ群落の形成は不十分であった。

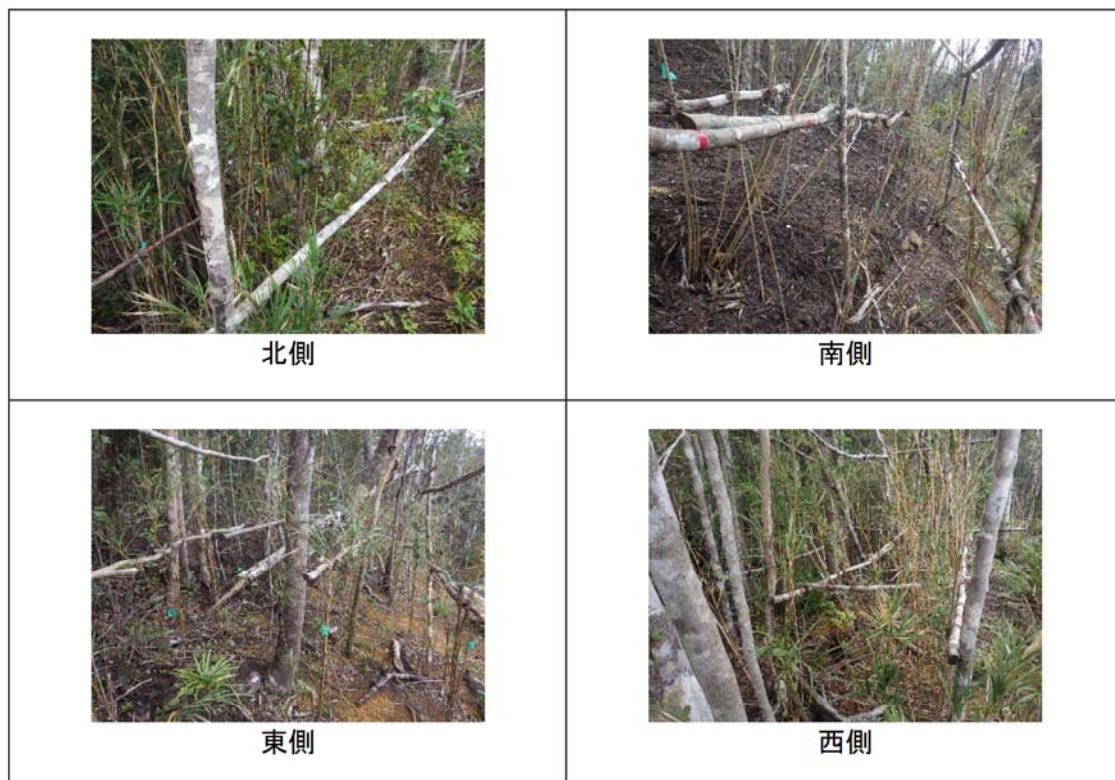


図 6.2.3-68 マント群落・ソデ群落の植生状況 (N-1 (b)) 平成 29 年度冬季

表 6.2.3-45(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(b))

調査年月	N-1(b) マント群落・ソデ群落形成地												出現回数
	北側			南側			東側			西側			
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度			
方位	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	
傾斜角度 (°)	40	40	40	15	15	15	-	-	-	5	5	5	
調査区面積 (m ²)	2×4	2×4	2×4	3×1.5	3×1.5	3×1.5	1.5×3.5	1.5×3.5	1.5×3.5	2×4	2×4	2×4	
高木層(T1)の高さ (m)	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	-	-	8.0	8.0	8.0	
高木層(T1)の植被率 (%)	50	30	30	-	-	-	-	-	-	10	10	10	
高木層(T1)の出現数 (種)	3	3	3	-	-	-	-	-	-	1	1	1	
亜高木層(T2)の高さ (m)	5.0	5	5	4.0	4.0	4.0	-	-	-	5.0	5.0	5.0	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	10	15	10	10	-	-	-	10	10	10	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	2	2	2	2	1	1	-	-	-	2	3	3	
低木層(S)の高さ (m)	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	20	30	30	20	20	20	45	40	40	35	35	35	
低木層(S)の出現数 (種)	3	4	4	2	2	2	4	3	1	1	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	1.5	1.5	1.5	1.3	1.3	1.3	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	25	25	25	10	5	5	15	15	15	10	10	10	
草本層(H)の出現数 (種)	22	22	22	19	11	9	16	13	15	14	19	18	
出現種数 (種)	24	24	25	21	12	10	18	15	16	17	22	20	
高木層													
T1.1 ヒメズリハ	1・1	1・1	1・1							1・1	1・1	1・1	6
T1.2 スダジイ(イタジイ)	3・2	2・1	2・1										3
T1.3 モッコク	+	+	+										3
亜高木層													
T2.1 イスノキ	1・1	1・1	1・1							1・1	1・1	1・2	6
T2.2 フカノキ	+	+	+										3
T2.3 シロミズ				1・1	1・1	1・1							3
T2.4 シラタマカズラ										+	+	+	3
T2.5 タイミンタチバナ											1・2	1・2	2
T2.6 モッコク				1・1									1
低木層													
S.1 リュウキュウチク (植栽)	+	+	+	1・2	1・2	1・2	3・4	3・4	3・4	3・4	3・4	3・4	12
S.2 イスノキ	1・1	1・1	1・1					+	+				5
S.3 スダジイ(イタジイ)		1・1	1・1	1・2	1・2	1・2							5
S.4 リュウキュウチク	1・1	1・1	1・1										3
S.5 カクレミノ									+				2
S.6 シラタマカズラ											+	+	2
S.7 シロダモ								+					1
S.8 タイミンタチバナ								+					1
S.9 ギョクシンカ											+		1
草本層(H)													
H.1 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	1・2	1・2	+	+	+	+	+	+	+	12
H.2 イヌマキ	+	+	+	+	+		+	+	1・1	+	+	+	11
H.3 コハンモチ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	11
H.4 シラタマカズラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	11
H.5 タイミンタチバナ		+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+	+	+	11
H.6 ササクサ	+	+	+	+			1・2	1・2	+2	+2	1・2	1・2	10
H.7 シンエダウチホンダウシダ	+	+	+	+			+	+	+	+	+	+	10
H.8 アデク	+	+	+	+			+	+	+	+	+	+	10
H.9 オキナワサルトリイバラ	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	10
H.10 アオバナハイノキ	+	+	+		+	+				+	+	+	8
H.11 ササバサンキライ	+	+	+		+	+			+				7
H.12 リュウキュウチク (植栽)	2・3	2・3	2・3	1・2	1・2	1・2							6
H.13 イスノキ				+			+	+	+		+	+	6
H.14 タブノキ	+	+	+	+									5
H.15 インドシャリンバイ	+	+	+							+	+		5
H.16 シマミサオノキ	+	+	+								+	+	5
H.17 シバヤブニッケイ	+	+	+	+									4
H.18 リュウキュウモチ	+	+	+									+	4
H.19 カクレミノ				+	+					+		+	4
H.20 マンリョウ				+			+				+	+	4
H.21 イジュ	+	+	+										3
H.22 リュウキュウチク	+	+	+										3

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.2.3-45(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(b))

調査年月	N-1(b) マント群落・ソデ群落形成地												出現回数
	北側			南側			東側			西側			
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度			
方位	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	7/18	10/6	1/22	
傾斜角度 (°)	40	40	40	15	15	15	-	-	-	5	5	5	
調査区面積 (m ²)	2×4	2×4	2×4	3×1.5	3×1.5	3×1.5	1.5×3.5	1.5×3.5	1.5×3.5	2×4	2×4	2×4	
高木層(T1)の高さ (m)	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	-	-	8.0	8.0	8.0	
高木層(T1)の植被率 (%)	50	30	30	-	-	-	-	-	-	10	10	10	
高木層(T1)の出現数 (種)	3	3	3	-	-	-	-	-	-	1	1	1	
亜高木層(T2)の高さ (m)	5.0	5	5	4.0	4.0	4.0	-	-	-	5.0	5.0	5.0	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	10	15	10	10	-	-	-	10	10	10	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	2	2	2	2	1	1	-	-	-	2	3	3	
低木層(S)の高さ (m)	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	20	30	30	20	20	20	45	40	40	35	35	35	
低木層(S)の出現数 (種)	3	4	4	2	2	2	4	3	1	1	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	1.5	1.5	1.5	1.3	1.3	1.3	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	25	25	25	10	5	5	15	15	15	10	10	10	
草本層(H)の出現数 (種)	22	22	22	19	11	9	16	13	15	14	19	18	
出現種数 (種)	24	24	25	21	12	10	18	15	16	17	22	20	
草本層(H)													
H. 23 エゴノキ	+	+	+										3
H. 24 ヤンバルミミズバイ				+	+	+							3
H. 25 エダウチクジャク							+2	+2	+2				3
H. 26 シロミミズ							+	+	+				3
H. 27 ギョクシンカ							+	+	+				3
H. 28 クロヘゴ										1・1	+	+	3
H. 29 フカノキ	+	+											2
H. 30 オオバギ		+	+										2
H. 31 ヤマヒハツ			+								+		2
H. 32 ハナガサノキ				+	+								2
H. 33 オニクラマゴケ(ミドリカタヒバ)				+			+						2
H. 34 クロガヤ									+			+	2
H. 35 ナカハラクロキ											+	+	2
H. 36 オキナワスズメウリ	+												1
H. 37 ヤマモモ	+												1
H. 38 シロダモ			+										1
H. 39 ヒサカキ				+									1
H. 40 ケホシダ				+									1
H. 41 ヒサカキサザンカ					+								1
H. 42 ハゼノキ							+						1
H. 43 ムッチャガラ										+			1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
 群度→5: かべツト状に分布, 4: かべツトに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布